



ポロニアは県花「桐」の学名です。

発行／岩手県高等学校PTA連合会

〔事務局〕盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019) 625-6386
E-mail iwa-koupren@aroma.ocn.ne.jp FAX (019) 613-7795
http://iwaiken-koupren.org/

記念式典次第

- 1 開会のことば
岩手県高等学校PTA連合会副会長 山田 道宏
- 2 国歌斉唱
- 3 式 辞
岩手県高等学校PTA連合会会長 清水 成樹
- 4 表彰状贈呈
代表 前黒沢尻北高等学校PTA会長 八重樫 敏
- 5 感謝状贈呈
代表 元岩手県高等学校PTA連合会会長 工藤 重信
- 6 来賓紹介
岩手県高等学校PTA連合会副会長 海山 忠
- 7 祝 辞
岩手県知事 達増 拓也
岩手県高等学校長協会会長 梅津久仁宏
- 8 祝電披露
岩手県高等学校PTA連合会副会長 菊地 敏明
- 9 受賞者代表謝辞
代表 元岩手県高等学校PTA連合会会長 工藤 重信
- 10 閉会のことば
岩手県高等学校PTA連合会副会長 小野寺 道

岩手県高P連は結成70周年を記念して、6月4日にサンセール盛岡にて記念講演と式典、および茶話会を開催しました。当初は令和2年の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から翌年へ延期。満を持して行われた式典には各校のPTA会長や学校長、表彰受賞者など200人以上が出席し、手指の消毒や換気など万全の感染症対策を行った上で進められました。

記念講演には株式会社岩手銀行の代表取締役会長を務める高橋真裕氏を招聘。『持続する志』と大事にしてきた基本的な考え方として、高橋氏がお客様や行員と接する上で日々心がけていることのほか、東日本大震災からの復興などについてお話いただきました。

式典において清水成樹前会長は、この10年間で起きた東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の世界的流行、IT革命や働き方改革など、学校生徒を取り巻く環境が大きく変化

岩手県高P連結成70周年記念式典

70年の歴史を胸にさらなる飛躍と革新を

していることを踏まえ「どんな難題に対しても学校と一緒に行動する保護者でありたい」と、挨拶を述べました。

その後は長年に渡りPTA活動の推進に貢献してきた25名の役員を表彰。代表して岩手県立黒沢尻北高等学校前PTA会長の八重樫敏氏に表彰状が授与され、70周年記念式典における感謝状は、代表して岩手県高等学校PTA連合会元会長の工藤重信氏に贈呈されました。

当日、来賓として出席いただいた達増拓也岩手県知事からは、「岩手の未来を担う人を育てるためにさらなる活動を展開するとともに、岩手の教育の振興への協力をお願い申し上げます」とのご祝辞を拝受。また式典の最後には大柏良新会長より、清水前会長への感謝状贈呈も行いました。

式典後に予定されていた祝賀会は、感染症対策のため茶話会に変更。高P連元会長の渡辺正和氏の乾杯で結成70周年を祝いました。

祝辞



岩手県知事
達増 拓也

岩手県高等学校PTA連合会結成70周年記念式典が開催されるに当たりまして、お祝いを申し上げます。本日、栄えある表彰を受けます。本日は、栄えある表彰を受けられました皆さまに、深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

今までの人生で高校時代が一番楽しかった、あるいは高校時代が一番充実していたという人は、結構多いのではないかと思います。そのような高校生を育てること、また高校生を教育すること、これは、かなり力があることで、並大抵のことではありません。最近では新型コロナウイルス感染症対策に力を尽くされていることと存じ上げます。

岩手県高等学校PTA連合会におかれましては、昭和26年の結成以来、県内それぞれの地域において、学校、家庭、地域との連携を深め、ひたむきに活動し、岩手県の高校教育に大きな貢献をして来られました。この輝かしい歴史は、皆さまのご尽力の賜物であり、心から敬意を表します。

教育を取り巻く社会環境は、戦後の復興期から高度経済成長期を経て、今、情報化社会へと移り変

わりました。最近では5GやSocial5.0というような言葉に表されるような情報技術の進展や新しい生活様式への移行が身近に感じられるようになってきております。

このような中で社会の変化に対応し、心身ともに健康でたくましく豊かな人間性と創造性を備えた人材を育成するためには、学校、家庭、地域が連携、協働することがますます重要になっていきます。岩手県の総合計画、岩手県民計画2019-2028がスタートして3年目となりますが、この計画では家族、子育てや教育を政策分野の柱として掲げ、学校、家庭、地域の連携の仕組みづくりなどを盛り込んでいます。貴連合会におかれましては、この度の節目を新たな飛躍の機会として、未来の岩手を担う人を育てるためにさらなる活動を展開されますとともに、岩手の教育の振興にご協力くださいますようお願い申し上げます。

結びに、岩手県高等学校PTA連合会の今後、ますますのご発展と、ご参加の皆さまの一層のご健勝、ご活躍、そしてご多幸を祈念いたします。お祝いの言葉とい



祝 辞



岩手県高等学校
PTA連合会
会長 清水 成樹

日々新緑、色濃さを増し、初夏を迎えた今日この頃。ご臨席賜りました関係各位の皆さま方のお力添えを頂戴し、本日ここに岩手県高等学校PTA連合会創立70周年の節目を飾ることができまことを、大変嬉しく、心より感謝御礼を申し上げます。ありがとうございます。

戦後の混乱が続く中、教育基本法と同時に制定された学校教育法で、6・3・3・4の新学制がスタート。昭和23年、県内各校でPTAが誕生しました。そして、昭和26年には高校教職員の待遇改善と高校教育振興に関する問題解決には高校独自の県連合組織の必要性を痛切に感じ、結成された当連合会は、結成されてその日のうちすぐに、県知事、県議会、

県教育委員会に施設設備の充実、教職員の待遇改善についての陳情を行ったと記録に残っております。そしてその岩手の勢いは東北のみならず、全国組織を結成するにまで広がりました。当時、半分にも満たなかった県内高校進学率も、今や99%。昭和、平成と時代の変遷とともに令和を迎え、PTAの課題も変わって参りました。

特にこの10年は東日本大震災津波、度重なる水害からの復旧・復興、他地域への災害に対しても義援金を送る活動を展開。全国高P連大会岩手大会もありました。エアコン設置の陳情も行いました。そして今まさに、新型コロナウイルスとの戦い。日本のみならず世界中に猛威を振るう昨今、未だに予断を許さない状況が続いております。学校生活全般においても、今後も縮小、制限、自粛、中止を伴う機会の損失が予想されます。グローバル化に加え、IT革命、AI、ICT技術の飛躍で生活は便利になった一方、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が増すVUCAの時代。少子化、入試制度改革、教職員の働き方改革など、学校生徒



▲黒沢尻北高前会長 八重樫 敏 様



▲岩手県高P連元会長 工藤重信 様

祝 辞



岩手県高等学校校長協会
会長 梅津久仁宏

を取り巻く環境はこれからも大きく変わっていくでしょう。しかし、いつの時代であっても信念だけは一緒。高校とは夢を現実のものとして目標に置き換え、多様な価値観に触れながら自分の可能性と方向性を定め、その第一歩を踏み出す場であります。その環境を陰日向で支えていくのが保護者の努めであります。「竹は節があるから折れずにしなる」。創立70周年を迎え、これまでの歴代PTA関係者のご尽力に敬意を表し、感謝するとともに、行政、教育関係各位には引き続きご理解、ご支援をお願い申し上げます。そして次の10年に向けて「レジリエンス」、心の柔軟性、打たれ強さ、竹のようなしなやかさを培い、どんな難題に対しても学校と一緒に

本日は岩手県高等学校PTA連合会結成70周年、誠におめでとうございます。結成60周年以降の10年間は、東日本大震災津波、そしてその後の復興の取り組みを続け、教育現場においても学びの場の復興の推進に努めてきました。そして児童生徒が郷土を愛し、その復興、発展を支える一人となれるよう、「生きる」「関わる」「備える」という3つの教育的価値を育むため、岩手の復興教育に取り組んでいます。昨年から新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大し、学校現場は休校や行事

行動する保護者でありたいと強く決意を新たに、式辞といたします。



の中止や延期、対外活動の自粛など、さまざまな困難に直面することとなりました。そのような状況において、子どもたちは復興教育から学んだ命と絆の大切さを一層認識し、あらゆることに意欲的に取り組んでいます。このような状況にあればこそ、さまざまなことや人に出会い、感激し、努力する。与えられた場で全力を尽くす。素直で謙虚な心を持つ。そのような子どもたちを育てていかなければならないと考えております。幸い、本県の高校教育は高P連と連携しながら諸課題を克服してきた歴史があります。どうか今後も学校と家庭の連携を一層深め、地域に開かれた教育を充実させるためご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。結びに、岩手県高等学校PTA連合会結成70周年という大きな節目の年にあたりまして、貴連合会のみならずのご発展を心から祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

岩手県高等学校PTA連合会結成70周年記念講演会

『持続する志』

～大事にしてきた基本的な考え方～



株式会社岩手銀行
代表取締役会長

高橋 真裕

私は56歳で頭取に就任した時、自分がこの重責を担っていきけるだろうかと不安になると同時に、地位にふさわしい人間になろうと努力を重ねることの大切さを痛感しました。私が思う地位にふさわしい人間とは、「結果を残せる」「人を育てる」「お客様との良好な関係を構築できる」「倫理観の高い人間」「意識改革ができる」あるいは「自分の可能性に線を引きつけない人」です。

これまで若手行員には「まずは目の前の仕事を丁寧に、腐らずにやっていくこと」を伝えてきました。そうすることで必ず周りの人たちが見ていて、新しい仕事を与えてくれるからです。もちろん自分の強みを生かすことで存在感を発揮することも重要です。

近年ではお客様とのやり取りをメールや電話で済ませるケースが増えてきました。しかし直接、お客様とお会いすることとで先方の表情や雰囲気から得られる情報は想像以上に多いものです。私はこれから先、どんなにネット社会が発達したとしても、コミュニケーション能力を高めることと人と直接関わっていくことは必要だと考えています。

今年には東日本大震災からちょうど10年になりますが、あの経験によって私はもちろん、行員たちも非常に鍛えられたのではないかと思います。当時はとても厳しい決算を余儀なくされましたが、そうした状況だからこそ当行の強みを再認識して、ピンチをチャンスに変える機会であるという意識の徹底を行いました。八方塞がりのように感じる状況でも、突破しようという決意があれば必ず道は開けるのだと思います。

私は常々、魅力ある経営者として成長し続けるために、「常に生き生きとしていること。いつもあるべき姿を求めていること。忍耐強いこと。スキルはもとより人間力を磨き続けること」という点を心がけています。まだまだ不十分な経営者の一人ではありますが、常に前を見ながら岩手県のために、あるいはお取引先のために精進して参りたいと考えております。



▲大柏 良 新会長と清水成樹 前会長



▲フルートアンサンブル Legato



▲渡辺正和 元会長によるコーヒー乾杯

岩手県高等学校PTA連合会 結成70周年記念被表彰者名簿

〔表彰状〕

(敬称略)

岩手県立盛岡第一高等学校
岩手県立盛岡第二高等学校
岩手県立盛岡第三高等学校
岩手県立盛岡第四高等学校
岩手県立盛岡南高等学校
岩手県立不来方高等学校
岩手県立盛岡工業高等学校
岩手県立盛岡商業高等学校
岩手県立平舘高等学校
岩手県立紫波総合高等学校
盛岡市立高等学校
岩手県立花巻農業高等学校
岩手県立花北青雲高等学校
岩手県立黒沢尻北高等学校
岩手県立前沢高等学校
岩手県立金ヶ崎高等学校
岩手県立千厩高等学校
岩手県立高田高等学校
岩手県立大船渡東高等学校
岩手県立住田高等学校
岩手県立釜石商工高等学校
岩手県立宮古工業高等学校
岩手県立種市高等学校
岩手県立軽米高等学校
岩手県立一戸高等学校

大浦 雅之
工藤 優子
藤原 誠司
石亀 賢一
佐藤 達見
小笠原 千永
山崎 元稔
佐々木 清
佐々木 俊明
菊地 昭
沼田 善広
千葉 豊
吉田 敏
八重樫 紀子
後藤 清治
高橋 弘之
千葉 昌也
鵜浦 淳文
佐藤 司
水野 明美
川端 麻子
戸田 守
吹切 口春彦
木戸 正三
柴田 正三

〔感謝状〕

岩手県高等学校PTA連合会元会長
岩手県高等学校PTA連合会元会長
岩手県高等学校PTA連合会元会長
岩手県高等学校PTA連合会前会長
岩手県高等学校PTA連合会元事務局長
岩手県高等学校PTA連合会前事務局長

工藤 重信
松尾 正弘
内舘 茂
渡辺 正和
高橋 忠孝
高橋 秀幸

来賓芳名

岩手県知事 達 増 拓 也
岩手県議会 議長 関 根 敏 伸
(代理 副議長 中 平 均)
岩手県教育委員会 教育長 佐 藤 博
岩手県教育委員会 教育局長 佐 藤 一 男
岩手県教育委員会 教育次長 兼 学校教育室長 高 橋 一 佳
岩手県教育委員会 生涯学習文化財課総括課長 藤 原 安 生
岩手県教育委員会 生涯学習文化財課主任社会教育主事 高 橋 省 一
岩手県市町村教育委員会協議会 会長 (盛岡市教育委員会 教育長) 千 葉 仁 一
岩手県高等学校長協会 会長 (岩手県立盛岡第一高等学校 校長) 梅 津 久仁宏
(一社) 岩手県PTA連合会 会長 田 口 昭 隆
岩手県高等学校教職員組合 執行委員長 佐々木 秀 市



高P連結成70周年表彰を受けて

紫波総合高等学校前PTA会長

菊地 敏明



新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態の中、結成70周年の節目を迎えました。思い起こせばPTA活動に足を踏み入れたのは、長女が保育園に入園した保護者会が最初でした。「すべては子どもたちの為」と思い協力したのが始まりで、保護者会としての保育園や幼稚園、PTAとして小学校、中学校を経て高等学校という所迄、長きにわたり活動をして参りましたが、私もかなり成長させていただきました。これも偏に關

係各位、並びにPTA会員の皆様の、物心両面に渡るご協力の賜物と深い感謝をしております。

70年という年輪を刻んできたのは繁栄を願ってやまなかった諸先輩方の熱意は勿論のこと、高P連の発展と存続に努めたからに他なりません。すばらしい伝統に導かれ魅力ある連合会が構築され、今後も脈々と受け継がれ、過去から現在そして未来への更なる伝統を築くべく、着実に日々歩みを進めており、素晴らしい思い出として、いつまでも心に残る事だと思えます。そして将来我が子にもこの素晴らしいPTAというものに貢献してもらえたらと思っております。

今後30年、50年、100年後には、もっと素晴らしい連合会になっっていることを願っております。

高P連結成70周年表彰を受けて

盛岡南高等学校元PTA会長

佐藤 達見



県高P連と盛南PTAに感謝!!! 4月に懐かしい先生からの電話。「PTAの方で表彰者に選ばれましたので、資料を送付します。」との事。その時は軽く返答しましたが、会場へ行くと達増知事を筆頭に錚々たる来賓が名を連ねる、県高P連結成70周年式典での表彰でした。コロナ禍での開催ではありましたが、昨年はコロナの影響で生徒には思いに残るはずの大切な行事・大会が中止され、心を痛めておりましたので、実行委員長からの「出来る方策を模索し、良くも悪くもこの結果を今後の学校活動の参考とすべく開催した。責任は私にある。」との言葉に感銘を受けました。

高P連結成70周年感謝状を受けて

岩手県高等学校PTA連合会元会長

工藤 重信



このたび岩手県高P連70周年記念大会において感謝状を頂戴いたしましたことに、心より感謝申し上げます。私は、同60周年記念大会の際に会長を務めさせていただきました。あの頃は、キャリア教育に力点が置かれており、当時私の尊敬する宮沢賢治の「雨ニモマケズ」にをもとじて、「生きる力」としてご披露させていただきました。コロナ禍の中、一部手直しし、改めてご紹介させていただき御礼とさせていただきます。

情報氾濫社会にもマケズ、格差社会にもマケズ悩みやコロナにも負けぬ丈夫な心と体を持ち、欲はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている

高P連結成70周年表彰を受けて

盛岡第二高等学校元PTA会長

工藤 優子



岩手県高等学校PTA連合会結成70周年を迎えられましたこと、誠にめでとうございます。そして、式典では表彰を賜りましたこと御礼を申し上げます。思い起こしますと、私がPTA会長を務めました3年間に、第65回全国高等学校PTA連合会岩手大会と第66回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会が開催されました。全国大会では、分科会部長として7つの会場と盛岡二高担当の県民会館の運営をさせて頂きま

した。分科会は7つの会場での開催の中、視察で物品、動線の確認や当日の約1万人のお弁当の検討と共に業者やお茶と銘菓の選定等々全て初めての事でしたので、この大会に携わったことは、私にとっても得難い経験になりました。東北大会では、実行委員長を仰せつかりました。前年開催県でのアピール、講演者の人選、スローガンの選考等々、東北大会の運営は、全国大会の経験を生かす事ができ、大成功で終えることが出来たと思っております。また、この2つの大会の大成は、共に奮闘した各PTA会長の皆様、事務局、会員の皆様、関係各位の皆様のお力の賜物と思えます。改めて皆様へ感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

岩手の部活動を支えるPTA

復活を期して

沼宮内高校 ホッケー部

父母会長 川上 信彦

沼宮内高校ホッケー部は1986年の創部以来、男子26回、女子13回、(団体は岩手県選抜チーム含)の優勝を達成しています。しかし、近年は全国大会に出場するものの、上位進出はなりません。部員の多くは岩手町内の出身中学生です。今年度の部員は男子23名、女子12名と特に女子は少子化の影響が顕著で、部員以外の生徒に協力して頂き、大会に参加している現状です。練習は岩手町ホッケー場を主として活動しており、県外遠征は関東・北信越や近畿方面に出かけ、チーム力の向上を図り、全国優勝の復活を目指し頑張っています。



ホッケー部の父母会では練習拠点である岩手町ホッケー場に施設の理解を得て、倉庫を常設し、用具など保管できるようにしました。又、強化の為、選手強化費を保護者から徴収し、県外遠征や各種大会へ旅費を支援しております。更には岩手町からも、多大なるご支援を頂き、充実した環境が整っています。

令和4年度より、岩手町からの協力により、県外から受験生を受け入れることが可能になり、目的を持って本校を受験する県内外の生徒に期待を寄せているところであります。

今年度は最後の大会、12月に岐阜県で開催される全国選抜大会があります。是非、東北予選を突破し、全国大会での活躍を祈念しています。

「目指せ全国制覇」沼宮内高校ホッケー部、父母会一丸となって応援しています。



インターハイに 出場して

平舘高等学校 相撲部

保護者 田村 砂織

我が家が相撲とかかわるようになったのは、長男が小学校5年生の時、「八幡平市相撲大会に出てみないか」と誘われたことがきっかけです。初めは大会に出場することを嫌がっていた長男でしたが、その後相撲を続け、現在は大学2年生になりました。その兄の背中を追いかけて相撲を始めた次男も、今年平舘高校に入学し、相撲部に在籍しています。

ほとんど大会がなかった昨年の悔しさをぶつけるように、2年ぶりの高総体で子どもたちは活躍し、インターハイ出場の切符を獲得しました。私たち保護者も楽しみにしていたインターハイ。残念



ながら会場での観戦はできずウェブ観戦となりましたが、子どもたちの雄姿を見ることができました。全国の壁は高く、団体戦はベスト16に終わってしまいましたが、全員が団結し、躍動する様子を観ることができ、胸が熱くなりました。また、個人体重別100kg級では、工藤佳太君が県勢初となる優勝を果たしました。誰よりも筋トレや練習を沢山していた工藤君だからこそ、優勝できたのだと思います。息子のチームメイトから全国チャンピオンができたことを、大変嬉しく思います。

現在平舘高校相撲部は、部員5人ではありますが、お互いに切磋琢磨して来年度のインターハイ優勝を目指し頑張っています。1・2年生だけのチームで、幸いにも全員が同じスポーツ少年団で活動していた仲間たちです。肉体的・精神的にも辛い競技ではありますが、皆で力を合わせ助け合いながら、頑張っていきたいと思っています。

コロナ禍の大変な状況の中、指導して下さった先生方をはじめ、コーチの皆様、ご協力とご支援を頂いております皆様、心より感謝申し上げます。平舘高校相撲部の活躍を期待しております。

役割の理解と的確なコミュニケーション

東北大会
個人表彰

久慈高等学校前PTA会長

貫牛 利一



我が子の高校生
活と一緒に3年間に
わたりまして、PTA
活動に携わらせて
いただきました。こ
の度は、身に余る賞
を頂き、大変恐縮しております。何より
も素晴らしい賞を受賞させていただきました
したことに對しまして、感謝申し上げます。
す。本当にありがとうございます。

私自身PTA活動をさせていただきなが
ら、たくさんの気づきと学びがありま
した。その中の一つに「One for A
ll、All for One（ワンフォー
オール オールフオーワン）」、この言葉
は2019年のラグビーワールドカップ

を機会により有名になった言葉の1つで
す。この言葉の意味は、「1人は全員のた
めに、全員は1人のために」と言うふう
に誤解されることが多いのですが、本来
は「1人は全員のために、全員は1つの
目標のために」と言う意味だといいます。
私は、ラグビーに関しては全くの素人
ですが、ラグビーワールドカップの試合
を見て、とても感動しました。そしてラ
グビーが、とても組織開発的であること
に気づきました。PTA活動そのものも、
子どもたちの目標実現を応援することだ
と思います。一人一人が、チームの目標
や戦術を共有して、自分自身の役割をしっ
かりと理解し、状況に応じた的確なコミュ
ニケーションを図りながら、一丸となつ
て取り組み進められる活動が今後も続く
ことを願いたいと思います。

原点に立ち返る活動を

東北大会
個人表彰

黒沢尻北高等学校前PTA会長

八重樫 敏



この度は東北地区
高P連会長表彰個人
表彰という誠に過分
な表彰を頂き、心か
ら恐縮すると同時に、
今まで関わって
頂いた全ての皆さんに感謝申し上げます。
個人表彰とは言っても、会員の皆さん全
員の協力無くして6年間のPTA会長職は
成り立たないわけで、6年間の全ての会員
の皆さんと共に頂いたものと思うと、これ
また「有難い」受賞だと思えます。本当に、
本当に感謝の気持ちしかありません。

PTAについて考えてみますと、現在ま
で様々な場面においてPTAの果たして
きた役割と成果は決して小さくはなく、今
後も多少の変化はあるにせよその必要性は

高いと思っていますが、一方で様々な課題
もあると思います。そもそも必要だから作
られ存在してきたはずなのに、だんだんに
時代に合わない事業や構造なども問題とな
り、本来生徒のためのPTAであるべきと
ころがいつのまにかPTAのためのPTA
と化した部分もあるのではないかと、そんな
疑問を持つこともありました。自分の代で
できるだけ「そもそも論」に立ち返り、体
制をシェイプさせ、行事も本当に必要なも
のに減らしてきたつもりですが、まだまだ
課題は多く残ったまま現会長に引き継いで
しまったことは本当に申し訳なく思うこと
ろです。老婆心ながらこれからも問題意識
を高く持ち、常に原点を意識して活動して
頂けることを願ってやみません。

結びに、PTA活動に関わる全ての皆様
がこれからも生き生きと過ごされますよう
お祈り申し上げ、受賞のご挨拶とさせてい
たきます。

PTA活動での貴重な体験

東北大会
感謝状

水沢商業高等学校前PTA会長

小野寺 道



この度は、東北地
区高P連会長表彰感
謝状を頂き、誠にあ
りがとうございます。
これまでPTA活動
を共にした皆様に心
より感謝申し上げます。

令和2年度は、コロナ禍のため、委員
会等と思うように活動ができませんでし
たが、東北高P連健全育成委員会の活動
では岩手県が当番県となり、11月には盛
岡で東北高P連健全育成委員会を開催い
ました。各県からの活動報告のほか、
コロナ時代を生きる青少年と題した講演
では、コロナ禍により、それぞれが忙しい

中、外出を控えたことでコミュニケーション
を図る機会が以前より多くなり、家族
間の心の繋がりがより親密になることで、
新しい生活様式が確立しつつあるという
ことでした。

また、県高P連健全育成委員会活動と
して、登校時一声運動・マナーアップ運動
のほか、幟旗を作成し県内各校に2枚配
付を行いました。生徒を取り巻く健全育
成を考え、様々なアプローチのうち、次
年度へはSNSの使い方や乗車マナー指
導等を申し送りいたしました。

今回、PTA活動や高P連活動を通し
て、この活動でなければ知り合えないよ
うな方々との繋がりができ、いろいろな
考え方を学ぶ大変貴重な体験をすること
ができました。ありがとうございます。

素晴らしい日々、広い視野持つて

東北大会
感謝状

一関第二高等学校前PTA会長

吉田真梨子



この度は、東北
地区高P連会長表
彰感謝状をいただ
き、誠にありがと
うございます。

一関二高で2年

間PTA会長を務め、令和元年度に岩手
県高P連副会長、進路対策委員長、東北
高P連代議員、進路対策委員として様々
な会議に出席するため東北を駆け巡る年
となりました。また、東北地区高P連山
形大会では、岩手県代表として一関二高
のPTA活動発表をさせていただきました。
このような大きな大会で壇上に立つ
のは今までにない経験でとても緊張しま

したが、何事も楽しんだ者勝ち。とても
良い経験になりました。
なかなか経験することのできない貴重
な日々を送れたこと、また、その中で出
会った方々は私にとって素晴らしい財産
となりました。PTAに携わる者同士で
あるからこそ共有できる考えや悩み、また
自分には無い考え方や価値観に触れ、視
野を広げることが出来ました。

何もかもが不慣れな中、多くの方々に
助けていただいたからこそ務め上げるこ
とが出来たと思います。皆様方には心か
ら感謝いたします。

最後に、今後の岩手県高P連の御発展
を心より祈念申し上げ、受賞の挨拶とさ
せていただきます。ありがとうございます。

長年の先輩方の功績、希望の光が：

全国高P連
会長表彰

花巻南高等学校PTA会長

及川 功



島根で表彰！を
楽しみにしており
ましたが、につく
きコロナで今年も
島根の地へ行くこ
とができませんでした。非常に残念です。
この度、花巻南高校PTAは全国高等
学校PTA連合会会長表彰をいただきました。
この表彰は長年にわたる先輩方の
功績が全国に認められた結果であり、代
表者である私の名前はその時たまたま会
長をしていただけです。歴代の会長及び

関係者各位のご協力あつての表彰であり、
皆様に感謝と御礼を申し上げます。あり
がとうございます。

昨年年度に引き続き今年度もコロナに振
り回されておりますPTA活動ですが、
朝に「登校時ひと声かけ運動」を9月下
旬の1週間行いました。子どもたちの笑
顔が見られる良い時間です。
我々大人も元気をもらえる
時間でした。

学校行事の方も本校110周
年の節目の年でしたが、記念
式典や講演会など規模を縮
小しての開催、また修学旅行
や、各種大会の延期や中止で



▲母親委員会ブランター整備



▲登校時ひと声かけ運動

昨年同様の活動縮小を余儀なくされてい
ます。また、子どもたち、保護者が楽し
みにしています。花南祭も2年続けての縮
小での寂しい開催となりました。
ようやくとワクチンが打てるようにな
り少しは希望の光が差し込んでき
かと思っております。この長い冬を越し
た暁には素晴らしい日常が待っているこ
とを祈念してお礼の挨拶に代えさせてい
たきます。

活気ある活動の復活のために

優良PTA
文部科学大臣表彰

遠野高等学校PTA会長

松田 恵市



創立120周年の節
目を迎える年に、
このような輝かし
い賞を頂戴し、活
動を進めてきた関
係各位に心より感謝申し上げます。

例年であれば、マナーアップあいつ
運動を定期的に取り組み、PTA会報の
発行を行いながら、母親委員会とおやじ
の会で体育祭・鍋城祭・うさぎ狩りへの
協力など生徒たちの歩みと共に活動して
参りましたが、コロナウィルスの猛威に晒
され多くの活動の機会を失っております。
今回の受賞は、単年の取り組みをもつ

て表彰されたのではなく、これまでの継
続的かつ特徴的な活動が認められ評価さ
れての事と受け止めております。諸先輩
方をはじめPTAに携わった多く
の方々の御尽力の賜物であり、改
めて感謝の意を表する次第です。
今、PTAの存在意義を改めて
考えながら苦難の時間を過ごして
はおりますが、このような状況だ
からこそ生徒諸君の日々の学校生
活と、彼らの背中をしつかりと支
えていくことを続けていかなけれ
ばなりません。



▲うさぎ狩り



▲うさぎ狩り(おやじの会、母親委員会支援)



▲マナーアップ運動(生活厚生委員会)



▲体育祭母親委員会豚汁提供



▲体育祭母親委員参加競技



▲鍋城祭おやじの会もち撒き



▲鍋城祭おやじの会支援

できる取り組みを紡ぎ
ながら来るべきその日
のために力を蓄えて参
りたいと思います。

表彰を受けて

全国高P連
役員等表彰

岩手県高P連前会長

清水 成樹



頼まれ事は試さ
れ事・・・お陰様
で、岩手県高P連
会長という役割を
2年間務めさせて
頂きました。途中から新型コロナウイル
スの脅威に見舞われながらも、共に活動
してきた県内各地の仲間を代表して、東
北地区からの感謝状と全国からの表彰状
を拝受しました。これまで陰日向で支え
て頂きました関係各位・会員の皆様に関
から感謝・御礼申し上げます。難題の無
い人生は「無難な人生」・難題ある人生
は「有難き人生」・コロナ禍、連合会が
創意工夫しながらその役割と活動を考え
行動し、益々発展することをご祈念致し
ます。ありがとうございました。



つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること 第21回母親会員交流会

令和3年9月29日(水) 会場／サンセール盛岡



▲研究協議の様子



▲講演 岩手大学 奥野雅子教授



▲事例発表 黒沢尻北高校 斉藤美穂さん



▲母親委員長 横山由美さん

岩手県高等学校PTA連合会の第21回母親会員交流会が9月29日水曜日から午後1時から盛岡市のサンセール盛岡で開かれました。今年度も昨年同様、手指の消毒や座席の間隔を空けるといった新型コロナウイルス感染症対策をしたうえで、催となりましたが、県内27校から母親会員ら約60人が参加し講演と活動事例発表が行われました。開会式のあいさつで大柏会長は県内のコロナ感染者数が落ち着いてきた事に触れ、開催までの期間どうなるかというプレッシャーがあったが、ひとまず安心したと心情を述べるとともに、このような時世の中、参加者をはじめ

め多くの方の協力と準備がありこの交流会を開催できる事にあらためて感謝の気持ちを伝えました。

開会式に続き「子どもの成長を支える家族のコミュニケーション」と題し教育学博士で臨床心理士の岩手大学人文社会科学部 奥野雅子教授による講演が行われました。

奥野教授は昨今の新型コロナウイルスの感染拡大のように自分たちではコントロールできない事態についてネガティブ・ケイパビリティが必要だと説明。この答えや結論の出ない事態に耐える能力、できない状況を受け止める能力を意識し、子どもの成長を支えるというのはどういう事なのかをスライドを使って解説していききました。中でも人との関わりは相互作用である為、相手に良い働きかけをすれば良い循環が生まれ、それがまた相互に影響し合って良い関係を築いていくという話に参加者は自身の子どもとのコミュニケーションについてを重ねながら聞き入っていました。

講演後休憩を挟み黒沢尻北高等学校の事例発表と全体協議が行われました。

同校母親委員長の斉藤美穂さんによる事例発表は「母親委員会の取組み コロナ前と後」と題し活動報告をしました。毎年恒例の文化祭でのサーターアンドギーづくりは残念ながら2年連続中止となってしまうものの、その他の活動についてスライドを効果的に使いコロナ前と後でどのように変化したのか、どのよ

1万5,000円の映画とPTA東北大会



岩手県高等学校PTA連合会
会長 大柏 良

私は、テレビ番組を作っています。毎度、バチギリギリに納めると、さあ、誰もオレに締め切りを迫るヤツはいないぜと、映画館へ。さつき見てきたのは『DUNE』。最初、公開初日に見たのですが、ラストカットを見たときに「これは大変なものを見てしまった」と。聞けば、IMAX用に作られた映画。そうすると、仙台まで行かねばならぬ。来てしまいましたよ。仙台に。往復新幹線代込み、1万5,000円の映画…。俳優たちの佇まいと表情の凄さ。それをその角度から、その光で撮る監督は神だ。あ…。これは映画コラム：ではあり

うなアイデアでイベントをサポートしたのか紹介し、コロナ禍で子どもたちの安心と安全を考慮しながら、それでも何かサポートしてあげたいという母親委員会の熱い思いが伝わる事例発表となりました。最後には母親委員会というネーミングに関する問題提起も行われ事務局からも今後この件については様々な場で活発に議論し検討していく事を全体で確認しました。

閉会行事のあいさつで母親委員長 横山由美さんはコロナにより様々な制限を強いられる生活も2年目に入りましたが、

このような時代に同じ高校生を持つ親として参加者の皆さんと一緒に貴重な時間を過ごせた事をうれしく思うと同時に人数制限により参加できなかった方にもしっかりと共有し、来年は今年よりもたくさんの方々が参加できる事を願って母親会員交流会を締めくくりました。

参加されての感想

- ☆とても勉強になり講演を聞くことができた。家庭だけでなく、仕事にも活かせる内容だと思いました。
- ☆母親委員会は男女共同参画の発想から設置されたことを初めて知った。この名称が時勢に合わないとい前から考えていたが、設置の意義を損なわないようにしつつ、適当なものがいいかお知恵拝借したいと思います。

ませんでした…。

今年の映画は、親子の関係が展開の軸になるものが多いのです。この作品も、公正な世界構築を目指す組織に属する母と、そのために手駒にされた息子の葛藤を描いています。彼は、母の敷いたレールに乗りつつ、母の思いを越えて行きます。それが、宇宙を舞台に繰り広げられるSF大作です。

同じくらい壮大な志とスケールで、来年のPTA東北大会を企画中です。「この時代に、PTAがやらねばならぬ事は何か」と考えてきました。ただ、この映画を見て感じたのが「親が正しいと思っただ道を、子らに押し付けていないか…」ということ。本作品の悲劇の原因は、息子の思いを聞かなかつたこと。勝手に宇宙の救世主とされ、彼の名の元に多くの人が死ぬことになる。この大会でも、ある仕掛けを考えているが、子どもたちの声を聞いていない…。まずは、彼らの声を聞いてみたいと思います！

第31回 会長研修会

令和3年10月15日(金) 会場／サンセール盛岡

令和3年度岩手県高等学校PTA連合会 第31回会長研修会が、10月15日盛岡市のサンセール盛岡で開かれました。

今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で1日のみの開催となりましたが、各高等学校のPTA会長、副会長ら45人が出席。限られた時間ではありましたが、研究協議や講演会を通して意見交換をはかり充実した研修会となりました。

開会行事では岩手県高等学校PTA連合会大柏会長の挨拶に続き、来賓の岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課総括課長 藤原安生様は、本日参加の皆様方には学校と家庭、地域をつなぎ家庭や地域の教育力を高める中核として今後とも活躍いただきたいと話し、岩手の教育の振興推進に向けより一層の連携と協働を呼びかけました。

このあと研究協議Ⅰに移り、盛岡地区



▲金ヶ崎高 海鋒徹哉さん



▲講演 古舘友華アナウンサー



▲来賓 藤原安生様

と胆江地区から二人のPTA会長が事例発表しました。盛岡北高校PTA会長志田順悦さんは、同高の取組みをプロジェクトW「挑戦者たち」と題し、コロナ禍で思うように集まらない状況をきっかけに、ならば「心」でつながろうと新しいアイデアと行動力で挑戦し続けた内容をスライドや動画を交えながら報告。PTA会報のリニューアルや「ことばの花束」など生徒と保護者、先生をつなぐアイデアがどのようにして生まれ、どう形になっていったのか会場に実物も展示するなどして発表しました。

続いて金ヶ崎高等学校PTA会長海鋒徹哉さんによる活動報告では、同校の課題として生徒数の減少を挙げ、魅力を生徒の活性化する取組みについて紹介。生徒数の減少によりPTA理事や役員の選出も年々難しくなってきたという現状についても触れ、こちらも今後の課題と話しました。その後、各委員会の活動内容を発表。PTA会報に親から子どもへのメッセージコーナーを設けるなど盛岡北高校同様、一方向的な発信ではなく、つながり意識した工夫などを紹介しました。

続いて講演会に移り、テレビ岩手アナウンサー古舘友華さんが「相手に伝わる話し方」と題して講演しました。

講演の中で古舘さんは伝えたい事を正しく伝える為に必要な事として、何を何のためにどのように伝えるのか、自分の視点や立場をあらかじめはっきりさせておく事が重要だと話しました。

人の印象の多くは見た目（視覚情報）で決まるが、聴覚情報や言語情報も決して軽視できない。その為それらを出るだけ一致させる事で伝えたい事が伝わりやすくなると解説しました。

また、伝えるとは常に「相手」がいる事であり、一方向的なものではない、誰に

伝えるのか、伝える相手の立場に立つて話をする事を意識しておくという、プロの視点から様々な事例も交えお話ししました。

最後に研究協議Ⅱでは情報交換会が行われ、母親委員会の名称についてや、PTA役員選出の工夫などについて意見交換が行われました。

岩手県教育表彰を受けて



住田高等学校PTA会長
高橋 幸治

本校PTAは、昨年度の全国高等学校PTA連合会全国大会表彰についての団体表彰に続き、本年度は岩手県教育表彰を頂くことができました。改めて皆様方に感謝と御礼を申し上げます。

全国大会表彰と同様に、この度の受賞に関しまして、今まで本校PTA活動に関わられた皆様のご尽力あつての受賞と考えております。また、創立以来73

年となり、80周年へ向けて更に飛躍しようという取り組みでいる我が校にとりましても、追い風となる受賞であり、今後のPTA活動の力にも成り得るものでしょう。昨年度から続くコロナ禍の中で、学校行事同様、PTA活動も縮小や中止など明るい兆しが見えない状況です。PTAの主行事である「住高祭」の模擬店出店も二年連続で中止となりました。会員の皆様と交流する場が激減していることが残念でなりません。

しかし、この限られた状況の中でも、「子どもたちのためにできること」を考え、先生方や地域の皆様とともに一歩一歩、進んでいきたいと思っています。

新しい生活様式の中で、より有意義なPTA活動のあり方が必ず見つかると信じ、受賞の挨拶とさせて頂きます。この度はありがとうございました。



▲第1回PTA理事会



▲住高祭



▲登校時一声運動・マナーアップ運動



▲PTA総会



▲盛岡北高 志田順悦さん



▲金ヶ崎高 海鋒徹哉さん

第51回 事務局長研修会

令和3年11月12日(金) 会場／サンセール盛岡

第51回事務局長研修会は小雨の降る中、サンセール盛岡にて開催されました。昨年と同じく会場内の換気や席の間隔を空けるなどして感染症対策を行ったほか、恒例の研究協議を取りやめて時間短縮に務めました。



▲事例発表（盛岡北高）



▲事例発表（一戸高）

この日は63校が出席し、各種報告や諸連絡を中心に進められました。開会行事においては急遽、所用で欠席となった大柏県高P連会長の挨拶を事務局が代読。「研修内容を各校で共有していただき、今後のためにご意見をお寄せいただきたい」との挨拶が読み上げられました。

また来賓として、県教育委員会事務局生涯学習文化財課の藤原総括課長および佐々木社会教育主事が出席。藤原総括課長は、「豊かな人間性と創造性を兼ね備えた人間の育成のために、学校、家庭、地域が連携、協働して教育活動を展開していくことがますます重要になっていく」と述べました。

その後の報告および諸連絡では、来年度開催予定の東北地区高P連盛岡大会などについて説明。大会テーマは「えんく 応えよう、援けよう、囲まろう！子ども

がんばる岩手——第22回

岩手県立大船渡高等学校PTA会長 三浦 英和



自主独立

科が設置された昭和24年を創立年とし、現在に至るまで約15000名あまりの卒業生を送り出しております。

教育目標は「自主独立 ※自分の力と意思で、自分の責任において、物事を成すこと」をスローガンに、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指し、社会の変化に主体的に対応できる能力と国際的視野を持った人間の育成を目指しております。

生徒も教員もこの気概をもち、文武一道に励む学校像を理想としております。しかしながら、昨年度から流行している新型コロナウイルスによる影響で本校でも活動を縮小・変更を余儀なくされております。

たちの未来のために」とし、今後、東北地区高P連総務委員会などに諮っていく予定です。

情報交換ではコロナ禍におけるPTA活動のあり方として、盛岡北高校や一戸高校が事例を発表したほか、PTA会費や新型コロナウイルス感染症の影響に伴う予算の返金などについて意見交換を実施。最後に地区ごとに分かれて今後の打ち合わせをし、終了した所から解散となりました。



▲来賓挨拶

令和3年度優良PTA文部科学大臣表彰受賞

遠野高等学校PTA

令和3年度岩手県教育表彰受賞

住田高等学校PTA

令和3年度全国高P連会長表彰受賞

〈団体表彰〉

盛岡商業高等学校PTA

花巻南高等学校PTA

〈役員等個人表彰〉

岩手県高P連会長 清水 成 樹

令和2年度 第69回東北地区高P連秋田大会表彰

〈感謝状受賞〉

盛岡第一	会 長	清 水	成 樹
水沢商業	会 長	小野寺	道
一関第二	会 長	吉 田	真梨子
大 野	会 長	坂久保	了

〈個人表彰受賞〉

紫波総合	会 長	菊 地	敏 明
花 巻 南	会 長	山 田	道 宏
黒沢尻北	会 長	八重樫	敏 明
福 岡	会 長	細 沼	典 一
久 慈	会 長	貫 牛	利



▲ママショップ 三密を避けながら2カ所で販売しました。

岩手県高P連委員会活動報告

ひたむきさの先に



健全育成委員長
小林 康弘
(宮古高等学校)

日頃より、健全育成委員会活動にご協力を頂き、感謝申し上げます。今年度委員長を務めさせていただきます。宮古高校PTA会長の小林康弘です。よろしくお願いいたします。6月に開催された第1回の合同委員会・各委員会は、オリンピック・パラリンピック競技大会に関わる仕事の都合により、参加できずご迷惑をおかけいたしました。新型コロナウイルスの感染拡大により、人流の抑制がなされ多くのイベント、行事の自粛が行われました。令和

3年8月13日には岩手県独自の緊急事態宣言が発せられるなど依然として感染拡大対策には注意を要する状況が続いております。活動が制限される状況ではありませんが、昨年度と同様に各学校PTAと連携して「登校時一声運動・マナーアップ運動」を健全育成委員会の取組みの中心として推進してまいります。各校のPTA活動や行事が縮小されるなど子どもたちと触れ合う場が少なくなっていることと思います。登校時に一声挨拶などを交わすことで子どもたちの学校での様子に少しでも触れる機会となりますので、活動へのご協力をお願いいたします。パラリンピックの選手の活躍を拝見し、自身の困難を乗り越え競技する姿にひたむきな努力を重ねた輝きを感じて心が熱くなりました。困難に立ち向かう活動の推進に少しでも尽力したいと思っております。



進路対策委員長
道地 勇
(伊保内高等学校)

コロナ禍で思うような活動もできず

本年度大船渡東高等学校から引き継ぎし、進路対策委員会がスタートしました。

私自身、委員会では、どのような事をすればよいのか、また、会議の進め方など全くわからずにいました。

第1回の委員会では、前年度の様子を伺い今年度の活動内容について、委員で話し合いをもちました。前年も同様だったようですが、各高校ともに地域の特異性等があり一律ではない。た

だし、最終的には、就職することになる。現在はコロナ禍でこれまでの就職試験にどのような変化があるのか、また今後、どのようなようになっていくのか、親としても心配な現状でありました。そのようなことについて講演していただく方を事務局にお願いしました。今年度は、講師としてジョブカフェいわてプロジェクトマネージャー牛崎志緒氏による「若者の就職支援から見えること」と題した講演がおこなわれ、コロナ禍における就職戦線の現状についてお話をいただき大変参考になりました。このことを踏まえて、子ども達と話し合いをもちながら進路を決定していきたいと思いました。東北高P連進路対策委員会についてもコロナ禍で開催が見送られ、他県・他校との情報交換もできない状況で残念に思います。



調査広報委員長
志田 順悦
(盛岡北高等学校)

今こそ必要な「広報力」

日ごろより当委員会の活動にご協力を賜り心から感謝申し上げます。『人とのつながりがPTAの財産』という言葉をよく耳にします。しかし今、コロナ禍によって、人とのつながりを生み出す「出合いの場」が失われ、PTAの財産が大きく損なわれようとしています。一体どうすればいいのでしょうか。手立てはありません。それは、「集まらないなら『心』でつながればいい」の



母親委員長
横山 由美
(盛岡第三高等学校)

今できること

へつなげようみんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できることをスローガンに、第21回母親会交流会が9月29日に開催されました。

例年ですと昼食を挟み、グループディスカッションもあるのですが、今年もコロナ対策のため参加人数の制限と短時間での活動となりました。

講演会では、岩手大学人文社会科学部人間文化課程教授の奥野雅子氏をお招きし「子供の成長を支える家族のコ

です。つまり「情報」を駆使し、効果的に発信し、受信し、共有して会員の心に共感を生み、「ことばの力」で人とのつながりを確保するのです。各校がつくる広報紙は今やPTAがこの危機を乗り越えるために必要不可欠なツールといえます。当委員会は、本年度も県高P連広報紙コンクールを実施することとし、6月には第1回委員会を開催。審査方法を進めてきました。おかげさまで本年度も多く応募をいただいております。県高P連広報紙「ポロニア」も発行できました。今後も当委員会は、各校PTAの広報力のさらなる向上を積極的に支援します。今こそ必要な「広報力」をみんなの力で高めていきましょう。

コミュニケーション」について、先生の親としての体験や臨床心理士としての立場からと、多方からの視線でお話を頂きました。

活動発表は、黒沢尻北高校の母親委員長様に「母親委員会の取り組み コロナ前と後」のタイトルで、写真で比較しながら、わかりやすく発表して頂きました。どこの学校でもコロナで活動が自粛され、今までの伝統活動をどう継承していくか不安もあるようです。

本来の交流会の形ではありませんでしたが、感染症を怖がるだけでなく、正しく理解し工夫して活動できるようになってきたと、感じます。

来年は、たくさんの方が参加できる環境になっていることを願います。

おらほのPTA

少ないから こそその結束

岩手県立前沢高等学校
PTA会長

佐藤 加奈子

PTA活動は、広報委員会・研修委員会・母親委員会の三委員会構成されており、広報委員会はPTA会報「ろばた」の発行、研修委員会はPTA研修の企画・開催を行っています。今年は残念ながらコロナの影響で断念せざるを得なかったのですが、例年沢山の会員が参加し



▲あいさつ運動



▲文化祭



本校は「聴く 明るく 逞しく」を校訓とし今年で96年目を迎える歴史ある学校です。全校で135名と少人数だからこそ教師と生徒の距離が近く、良好な関係が築けています。部活動はバドミントンが盛んで全校の3分の1はバドミントン部に所属しています。他運動部も文化部も盛んに活動しており、特にJRC部は地域ボランティアや福祉活動に貢献し、総合文化部は3月に水中ドローン体験をするなど積極的に活動をしています。

交流を深めていきました。母親委員会は挨拶運動の実施や文化祭をより盛り上げる為の企画、開催を行っています。現段階ですが、今年度の文化祭は非公開縮小開催を予定しており、母親委員会は「ミニ縁日」を企画し全校生徒が心から楽しめるように準備を進めています。早く日常に戻り、今後のPTA活動が更に活発に出来ることを切に願いながら一致団結し活動をしていこうと思います。

今回の編集を終えて、否応なく変化への対応が求められる「正解」のない時代の中で、私たちPTAが道を拓いていくためには、子どもたちの幸せを願う「親心」、そして「ことばの力」、すなわち「広報力」が今こそ必要とされていると、改めて感じました。

(調査広報委員長・志田 順悦)

学ぶ・つなぐ・ 支える

岩手県立久慈拓陽支援学校
PTA会長

落合 竜也



本校は、昭和54年4月に岩手県立久慈養護学校(知的障がい)として開校され、今年で43年目を迎えました。現在、小学部、中学部、高等部に合計79名が在籍し、学校経営方針「学ぶ」「つなぐ」「支える」の三点を掲げて取り組んでいます。また、本校には寄宿舎が併設されており、29名が生活しています。



▲PTAバザー



▲PTA研修会

PTA活動は、研修部、広報部、厚生部、行事部があり、それぞれ事業所見学、会報発行、PTAバザー、歓迎会などを担当しています。昨年度に引き続き今年度もコロナ禍のため活動が中止・縮小となりました。歓迎会は、子どもも一緒に参加し、ダンスや歌などがあり、大変盛り上がりがあります。ずっとみなさんと一緒に居たいと思える会です。PTAバザーも好評で、すぐに売り切れになりました。売上げは、児童生徒の学習

活動に還元されます。また、学校指定服リサイクル(小さくなった運動着、作業着、制服を学校に持ち寄り、必要な方に再利用してもらう取組)があります。PTA会報「望松」は年3回発行し、1回目は全職員の顔写真を載せて覚えやすいようにしています。コロナ禍のため学校や地域の皆様との交流は難しいですが、一日も早くコロナ禍が終息し、活発にPTA活動を再開できることを願っています。

編集後記

会員の皆さん、日ごろより県高P連の広報活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。また、編集にあたり、ご多忙の中をご寄稿いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。

さて、本号では、結成70周年を迎えた県高P連の記念特集をお届けしました。

コロナ禍に伴う制約が続く中、細心の注意を払いながら記念式典を開催することができたことは、なによりも会員の皆さんや関係機関のご理解とお力添えの賜物。会員一人ひとりとつとに本心に喜ばしいことでしたね。また、この栄えある式典において表彰を受けた皆さん、本当におめでとうございました。

特集では、達増拓也県知事をはじめご来賓からのご祝辞や受彰者の皆さんからのメッセージを掲載させていただきましたが、いずれの言葉にも、時代の先行きを心配する一方、学校や家庭、地域の一層の連携や、新しい時代に向けたPTA活動の再構築と質的向上への大きな期待と激励の気持ちが込められていました。

今回の編集を終えて、否応なく変化への対応が求められる「正解」のない時代の中で、私たちPTAが道を拓いていくためには、子どもたちの幸せを願う「親心」、そして「ことばの力」、すなわち「広報力」が今こそ必要とされていると、改めて感じました。

(調査広報委員長・志田 順悦)

◇事務局

佐藤 尚 (盛岡北高校)
木村 智子 (県高P連)

委員

副委員長 田口 雅敏 (盛岡南高校)
委員 小松 和代 (花巻農業高校)
岩田 文恵 (一関第一高校)
岩田 智子 (沼宮内高校)

〈編集委員〉令和3年度調査広報委員会

委員長 志田 順悦 (盛岡北高校)
副委員長 田口 雅敏 (盛岡南高校)
委員 小松 和代 (花巻農業高校)
岩田 文恵 (一関第一高校)
岩田 智子 (沼宮内高校)